

あいち病害虫情報 最新情報

令和5年11月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温は高い見込み

名古屋地方气象台11月16日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込みです。

トマトキバガの発生に注意しましょう（トマトなど）

本県におけるトマトキバガのフェロモントラップ誘殺の初確認については、10月23日発表の「令和5年度発生予察特殊報第1号」でお知らせしたところです。その後も県内各地の9カ所のフェロモントラップで相次いで誘殺されています。県内での農作物の被害は今のところ確認されていませんが、他県では本虫によるトマトへの加害が報告されており、今後の被害が心配されます。上記特殊報を参考にして、ほ場での被害を見つけた場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

キャベツ、ハクサイのチョウ目害虫

11月上旬のフェロモントラップにおけるチョウ目害虫の誘殺は、ハスモンヨトウ及びオオタバコガが多く、コナガ及びシロイチモジヨトウで平年並です。11月上旬のハクサイほ場の巡回調査では、ハスモンヨトウの発生量はやや多く、コナガの発生量は平年並の状況です。これらのチョウ目害虫は薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。また、周辺ほ場への発生源とならないよう、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。

ハクサイの病害

ハクサイの軟腐病が発生しているほ場があります。秋季が温暖な年は本病の発生が多くなる傾向にあります。強風雨の後は速やかに薬剤防除しましょう。キスジノミハムシやチョウ目害虫などの食害痕からも感染しやすいため、害虫を防除するとともに、発病株及び残さはほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

収穫時にサツマイモ基腐病が発生していないか確認しましょう

サツマイモ基腐病が県内で発生しています。収穫時、貯蔵時にサツマイモに異常がないか確認しましょう。発病株は感染源となるので、ほ場の外に持ち出し適切に処分し、ほ場は土壌消毒を行いましょう。また、発病ほ場ではサツマイモの作付けを行わないようにしましょう。詳しくは、4月21日発表の「サツマイモ基腐病情報第1号」を参考にしてください。

トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ黄化えそ病

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）はタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。媒介昆虫の侵入を防ぐため、防虫ネットが破損していないかもう一度チェックしましょう。コナジラミ類の防除対策については、8月18日発表の「コナジラミ類情報第1号（トマト）」を参考にしてください。

10月下旬のキュウリほ場の巡回調査では、アザミウマ類の発生量は平年並ですが、キュウリ黄化えそ病が発生しているほ場があります。アザミウマの発生が認められたら速やかに防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820